千歳市樽前山噴火災害ハザードマップ

噴火災害に関する情報と避難について

噴火につながりそうな前兆現象が見られたときや突然噴火したとき、気象庁は、噴火警戒レベルを付して、「**噴火警報**」を発表して警戒を呼びかけます。また、火山が噴火した際にいち早くお知らせする「**噴火速報**」や、噴火後にどこに、どれだけの量の火山灰が降るかを予測する「**降灰予報**」が発表されますので、これらの情報を活用して落ち着いて行動するようにしましょう。

また、噴火により、被害が発生するおそれがある場合、市は防災行政無線・緊急速報メール・広報車・テレビ・ラジオ・市ホームページなどで、避難に関する情報を発表します。

屋内にいたり気象の影響などにより、防災行政無線が聞き取れない場合は、テレビやラジオ、インターネットなどを活用し、自ら情報を入手するように心がけましょう。

避難情報が発表された場合は、地域で協力し、適切に避難するようにしましょう。

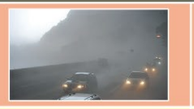
また、災害時は、住民一人ひとりが自らの判断で避難行動をとることが原則です。危険を感じた場合などは、避難情報が発表される前でも、自主的に安全な場所に避難するよう心がけましょう。

噴火警戒レベルと避難判断基準

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード	説明			避難判断基準		
				火山活動の状況	住民などの行動	登山者・入山者への対応	カテゴリーⅠの地域	カテゴリーⅡの地域	カテゴリーⅢの地域
特別警報	噴火警報（居住地域）又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5〔避難〕	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難などが必要である。（状況に応じて対象地域や方法などを判断する。）		避難指示	避難勧告 状況により避難指示	避難準備情報 状況により避難勧告
							地区住民 登山者 キャンパー	地区住民 観光客など	地区住民
			レベル4〔避難準備〕	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。（可能性が高まってきている。）	警戒が必要な居住地域での避難の準備、避難行動要支援者の避難などが必要である。（状況に応じて対象地域を判断する。）		避難勧告	避難準備情報 状況により避難勧告	
							地区住民 登山者 キャンパー	地区住民 観光客など	
警報	噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	レベル3〔入山規制〕	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活となる。（今後の火山活動の推移に注意。）状況に応じて避難行動要支援者の避難準備などを行う。	登山禁止・入山規制など、危険な地域への立入規制などを行う。（状況に応じて規制範囲を判断する。）			
		火口周辺	レベル2〔火口周辺規制〕	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活となる。	火口周辺への立入規制などを行う。（状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断する。）			
予報	噴火予報	火口内など	レベル1〔活火山であることに留意〕	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内での火山灰の噴出などが見られる。（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ。）		特になし。（状況に応じて火口内への立入規制などを行う。）			

降灰量階級について

気象庁が「降灰予報」で用いるもので、降灰量の情報を、わかりやすく、防災対応が取りやすいように伝えるため、降灰量を、降灰の厚さによって「多量」「やや多量」「少量」の3階級に表現したものです。下記の「降灰量階級表」では、それぞれの階級における「降灰の状況」と「降灰の影響」及び「とるべき対応行動」を示しています。

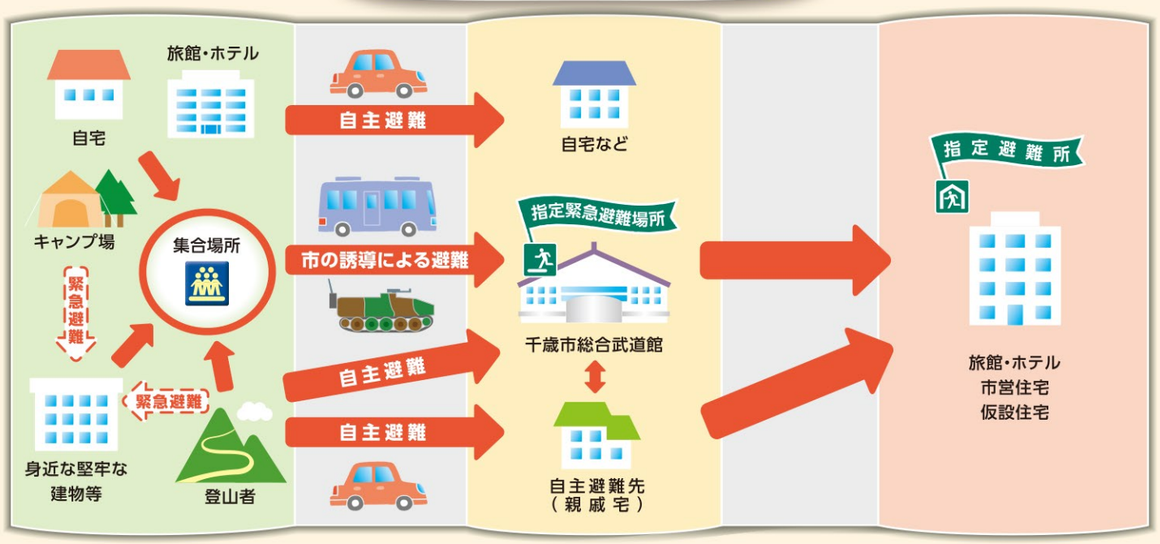
名称	厚さとキーワード	路面や視界のイメージ		とるべき行動
多量	1mm以上【外出を控える】	路面が完全に火山灰で覆われ、視界不良となる		外出を控える 運転を控える
やや多量	0.1～1mm【注意】	火山灰が降っているのが明らかにわかり、道路の白線は見えにくくなる		マスク等で防護する 徐行運転する
少量	0.1mm未満	火山灰が降っているのがようやくわかり、うっすら積もる程度		窓を閉める フロントガラスを除灰する

火山現象と避難の考え方

火山現象	危険度	時間的猶予	避難時期	避難先
火口形成　火砕流 大きな噴石　溶岩流（溶岩流到達3時間以内） 融雪型火山泥流 降灰後土石流	生命への危険性大	なし	各現象発生前に避難	避難対象エリア外へ避難
溶岩流（溶岩流到達3時間超）		あり	各現象発生後に避難	
降灰　小さな噴石	生命への危険性小			避難対象エリア内で避難

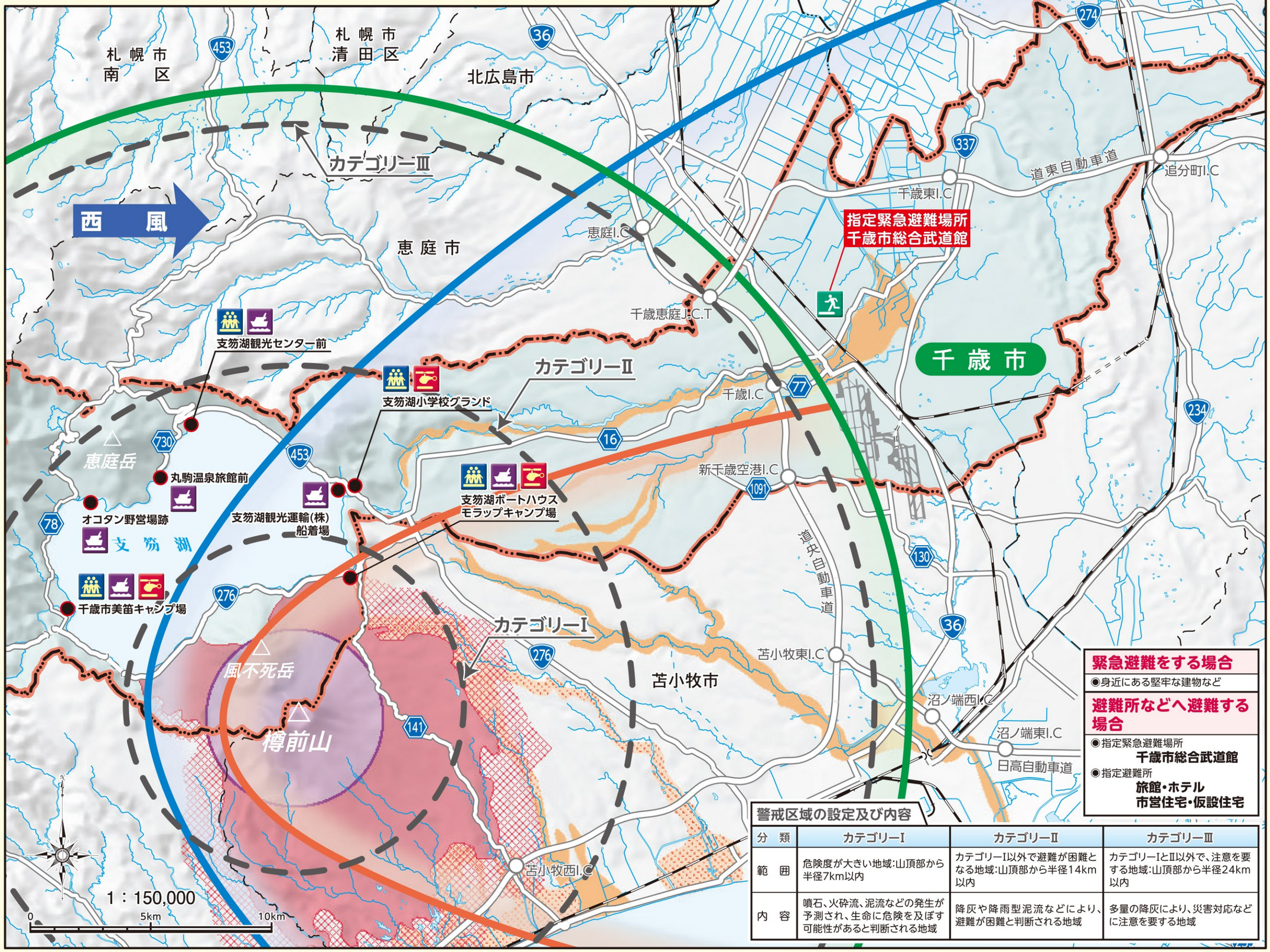
※ 避難対象エリア外へ避難する時間的猶予がない場合は、身近な堅牢な建物等へ避難する。

避難の流れ



お問い合わせ先
千歳市 総務部 危機管理課 防災・危機対策係
TEL.0123-24-0144（直通） FAX.0123-22-8852
【HP URL】 http://www.city.chitose.hokkaido.jp/ 【E-mail】 kikikanri@city.chitose.hokkaido.jp

千歳市樽前山噴火災害ハザードマップ



【火砕流】

火山から噴出された高温の火山灰・軽石・岩片・火山ガスなどが、斜面を急速に流下する現象です。温度は数百度に達します。軽石流あるいは熱雲と呼ぶことがあります。

	危険度重大	火砕流に襲われる危険性が最も高い区域
	危険度大	火砕流の熱風部に襲われる危険性が高い区域

【噴出岩塊】

直径数10cm～数mの岩が火口から数kmまで飛びます。小さな噴火でも絶対に火口に近づかないようにしましょう。

	危険度重大	直径**1.5m**の岩が飛んで来る危険性が最も高い区域

【泥流・土石流】

土砂・岩塊などが水と混ざりあって、高速で谷を流れ下る現象。谷の出口では、はん濫を起こします。火山噴火で火山灰が積もったときには、多少の雨でも発生します。これを火山泥流と呼びます。また、積雪期には、噴火によって雪が一気に溶けて、泥流が発生することもあり、これを融雪型火山泥流と呼びます。

	(積雪期には…) 危険度重大	積雪が火砕流の熱で融かされて発生する火山泥流がはん濫する危険性が最も高い区域
	火山灰が積もった地域(西風の時を想定)では 危険度大	雨のときに土石流がはん濫する危険性が高い区域 ※降灰の分布によって危険区域は変わるので、これ以外の谷にも危険性があります。

【降　灰】

火山灰は上空の風に運ばれます。上空の風は、地上の風とは異なり、強い西風の日が多く、そのため、降灰の危険区域は、主に樽前山の東側に広がります。数センチ積もるだけで、道路や鉄道などの交通機関がマヒします。

	(西風のとき) 危険度大	**100cm**以上火山灰が堆積する危険性が高い区域
	危険度中	**25cm**以上火山灰が堆積する危険性が高い区域 ※この区域の外にも降灰の可能性があります。
	(その他の風向きのとき) 風向きによっては**100cm**以上の火山灰が堆積する可能性のある区域 ※この区域の外でも**25cm**以上火山灰が堆積する可能性があります。	

緊急避難をする場合

◉身近にある堅牢な建物など

避難所などへ避難する場合

◉指定緊急避難場所
千歳市総合武道館

◉指定避難所
旅館・ホテル
市営住宅・仮設住宅

警戒区域の設定及び内容

分　類	カテゴリーⅠ	カテゴリーⅡ	カテゴリーⅢ
範　囲	危険度が大きい地域:山頂部から半径7km以内	カテゴリーⅠ以外で避難が困難となる地域:山頂部から半径14km以内	カテゴリーⅠとⅡ以外で、注意を要する地域:山頂部から半径24km以内
内　容	噴石、火砕流、泥流などの発生が予測され、生命に危険を及ぼす可能性があると判断される地域	降灰や降雨型泥流などにより、避難が困難と判断される地域	多量の降灰により、災害対応などに注意を要する地域

凡例ピクト

指定緊急避難場所　船着場　集合場所　臨時ヘリポート

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平27情使、第49-GISMAP35558号)